



平成 18 年 10 月 26 日

各 位

会 社 名 株式会社ベネフィット・ワン  
代表者の役職氏名 代表取締役社長 白石徳生  
(東証二部：2412)

問 合 せ 先 取締役経営管理部長 管理担当  
役 職・氏 名 小山 茂和  
電 話 03 - 4360 - 3159

## 平成 19 年 3 月期 中間業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 18 年 5 月 11 日に公表しました中間期（平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日）の業績予想を下記のとおり、変更いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

1. 平成 19 年 3 月期中間連結業績予想数値の修正（平成 18 年 4 月 1 日 ～ 平成 18 年 9 月 30 日）  
（単位：百万円）

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	5,176	20	7
今回修正予想(B)	4,918	252	141
増減額(B-A)	258	232	134
増減率(%)	4.98%	1,160.00%	1,914.29%

当社は、平成 18 年 3 月期中間決算において連結会計を行っていないためご参考情報としての前期連結中間実績を記載しておりません。

2. 平成 19 年 3 月期中間個別業績予想数値の修正（平成 18 年 4 月 1 日 ～ 平成 18 年 9 月 30 日）  
（単位：百万円）

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	4,273	39	27
今回修正予想(B)	4,357	229	122
増減額(B-A)	84	268	149
増減率(%)	1.97%	-	-
(ご参考) 前期実績(平成 18 年 3 月期中間)	4,066	113	43

### 3. 修正の理由

#### (1) 連結中間業績

売上高につきましては、主力の企業向け福利厚生事業が引続き好調に推移致している一方で、物販事業について連結子会社ベネフィットワン・パートナーズを中心に拡大ペースが当初想定より鈍化していたことで、予想を下回る見込です。

利益は、まず売上面で利益率の相対的に低い物販が計画比未達になったものの、収益性の高い福利厚生事業は増加したこと、経費面でもコールセンター運営の効率化や販管費などの経費削減に努めたことで、上半期特有の季節要因であるガイドブック経費の集中、夏期休暇における宿泊補助金等のコスト増加がありながらも、経常利益、中間純利益共に前回予想を上回る見込みとなりましたので業績予想の修正を行なうものであります。

#### (2) 個別中間業績

売上高につきましては、企業向け福利厚生事業が民間・公務マーケットともに受注が順調に推移しており、物販が伸び悩んだ面はありましたが、計画を若干上回る予想です。利益面では前述のとおり、効率的な運営に努めた結果、前回予想を上回る見込みとなりましたので業績予想の修正を行なうものであります。

なお、通期の業績予想(平成18年4月1日～平成19年3月31日)につきまして、今後、業績修正の必要性が生じましたら、すみやかに適時開示いたします。

上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績につきましては、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上